

■ 国際石油開発帝石株式会社 (1605)
2019年3月期 決算説明会 質疑応答

日付 : 2019年5月14日 (火)
出席者 : 81名
主な質疑応答 :

Q1: イクシス LNG プロジェクト (以下、イクシス) における生産ランプアップの状況及び見通し

A1: 生産開始から2019年4月末までLNGを41カーゴ出荷済。足元まで生産ランプアップは大変好調。今年5月に陸上トレインの一部を停止させる大規模なメンテナンス作業があるが、出荷への影響は無い。同メンテナンス作業後も生産ランプアップを加速させ、2019年12月期 (以下、今期) はLNGを月7~8カーゴのペースで出荷していく。

Q2: 今期 (2019年12月期) のフリー・キャッシュフロー (以下、FCF) の黒字化見通し

A2: イクシス下流会社を含む中計経営計画期間のFCFはプラス化する見通しをお示しているが、単年度のFCFでも今期に2012年3月期以来初めて黒字化する見通し。但し、イクシス下流事業会社を含まない制度会計上のFCFとは必ずしも一致しない。また、元本返済まで加味した今期のキャッシュフローは引き続き厳しい。

Q3: イクシスの生産ランプアップが好調な要因

A3: 現場のコミュニケーションやチームワークの良さが挙げられる。複数の生産施設間で作業を連携させながら、軽微なトラブルに対する速やかな現場対応に取り組んできた。

Q4: 前期のEBIDAX (利払い・償却・探鉱前利益) 実績におけるマハカム及びイクシスの影響

A4: マハカムは権益期限満了により生産物回収勘定回収額が減少しつつ、イクシスは生産開始により減価償却費が増加した。

Q5: アバディ LNG プロジェクト (以下、アバディ) を進めるにあたり、2040~50年にかけての天然ガスの需要見通し

A5: 天然ガスの需要はアジアを中心に2040~50年にかけて引き続き増加すると見込む。アバディは20年超の期間生産が可能な大規模なプロジェクトであり、増加するアジアの天然ガス需要を満たすとともに、LNGマーケットの中心部であるインドネシアや周辺地域の経済発展にも寄与する見込みであり、競争力のあるプロジェクトであると考えている。

Q6: 取得した米国タイトオイルプロジェクトの位置付け

A6: 米国の油や天然ガス需要や将来的な輸出可能性を踏まえたポテンシャルの高いプロジェクト。当社が国内で培ったフラクチャリング技術等のシナジーが活用できる。今後の展開については、米国での事業には難しい面もあるので、まずは本プロジェクトが順調に推進できるのかを見極めていく。

Q7: 配当金額の予想が前期比と同じ1株あたり24円としている理由

A7：今期は事業期間が9ヵ月であること、最終利益予想900億円、中計でお示しした還元方針を踏まえ、24円としている。なお、配当性向は前期実績36.5%から今期予想38.9%へ上昇している。

Q8：今期の営業キャッシュフロー、負債の削減規模の見通し

A8：イクシスの貢献等により、今期は前期の営業キャッシュフロー実績を上回る見通し。イクシスのプロジェクトファイナンスの約定元本返済については、当社分で年間1,000億円程度。

Q9：再生可能エネルギーのハードルレートの考え方

A9：上流E&P事業は二桁代のリターンを目指すハイリスク・ハイリターンの投資だが、再生可能エネルギーは一桁代のリターンのいわばミドルリスク・ミドルリターンの投資となる。

Q10：イクシス権益の4%追加取得が決算に反映される時期

A10：今期から反映されている。

以上

注意事項：

本書に記載される情報は、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

本書に掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。